



一期一会
土鈴との出会い

山本芳考さんの
型から
復元された土鈴

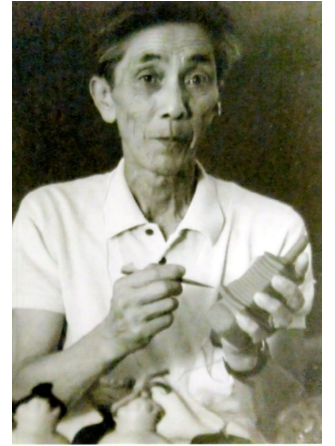
高取町土佐の街並みと作品展示



大和路の風景に溶け込むような作品たち
(順にコスモスと文殊菩薩の般若寺、天平祭りの平城宮跡、大きな石仏が
出迎える壺坂寺、シャクナゲの季節の室生寺)

1. 山本芳考さんについて

山本芳考（良久）氏 大正10年(1921年)1月30日生～昭和62年(1987年)2月11日没 は陶芸家・土鈴作家であり、社寺の授与鈴の作家としては第一人者であった。自宅は奈良県中部の高市郡高取町にあり、今なお城下町風情の残る土佐街道に面して、現在は御長男で陶芸家（明日香窯）の山本義博氏が継がれているが、義博氏は土鈴は作られていない。芳考氏の略歴は、第二次世界大戦前に当麻焼の大塚順啓氏に師事し、土鈴作りを学ぶ。戦前の作品としては飛鳥大仏、吉水神社の神鈴、談山神社の狛犬、当麻寺の仁王が挙げられる。しかし、昭和17年の召集で中断、ビルマで終戦を迎え、1年間の収容所生活を送ったのちに帰国。その後、薬品関連の仕事に従事した関係で唐津に赴任し、その間に唐津焼の技術を習得した後、昭和38年に帰郷。これより、土鈴作りを再開した。



山本芳考氏
(1986年・65歳)

芳考氏の作品は、モデルとなる仏像、瓦等の対象物にあくまでも忠実でレプリカかと思われるほどリアルに仕上げられ、妥協を許さぬ職人気質が感じられる。白毫寺の司録鈴の原型を作るときにも本堂内に粘土を持ち込んで数時間も立ち続けて思案し考案して作成されたという。没後30年以上経た現在でもオークションや骨董市での人気を理解できる。

そのような芳考氏であるが、急に亡くなられたために自宅にも作品はほとんど残されていないらしい。また、亡くなられたのは神戸土鈴友の会が発足（昭和61年6月）のわずか半年後。もう少し長生きされていたら訪問記や作品評が多く残されたであろうが残念である。

本冊子は約30年ぶりに復元された芳考氏の作品を紹介するのが目的であるが、それを通じて元の芳考氏の作品に思いを馳せていただくと幸いです。

2. 出会い

2015年5月に大和郡山市の城址で現代工芸フェア「ちんゆいそだてぐさ」が開催されました。土鈴を作る作家さんがいるかと期待して見に行った時、食器等の焼き物を並べた一つのブースに観心寺の天邪鬼土鈴が置かれているのが目につきました。早速購入しようとしたのですが、お祖父さんの作品で非売品とのこと、それで、その若い作家さんが芳考氏のお孫さんであることに気が付きました。

そこで話を聞くとお母さん(山本義博氏の奥様・香津代さん)が芳考氏の残された型から土鈴を再現されていることを知り、また、当日会場に来られていたお母さんとお会いできて作品を作っていただく約束ができました。

3. 山本芳香氏の誕生

山本香津代氏が芳考氏の残された型から復元された土鈴は既に50種を超えています。香津代氏のセンスでオリジナルの彩色を施されたものもあり、また、芳考氏の作品と区別がつかないほど忠実に再現されたものもあります。

しかし、あまりにも忠実に再現されているので、先代のものと区別するため「芳考」さんの「芳」と香津代さんの「香」を取って「芳香」という刻印を入れてもらえる事になりました。(ただし、岩船寺の身代わり不動明王土鈴のように、小さくてデザイン的に刻印が無理なものは除く。)

この経緯で土鈴作家・山本芳香氏が誕生しました。



山本芳香
さんと
刻印

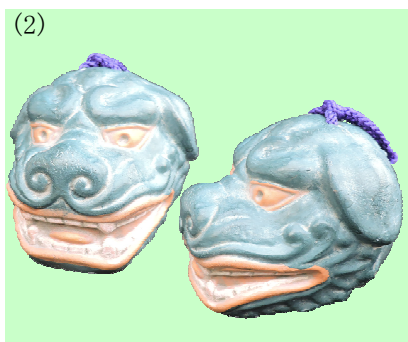
4. 山本芳香氏の作品集

山本芳香氏が今までに復元された作品を順にご紹介します。

(サイズは製品のバラツキや測定誤差を含む目安です。)



(1) 白毫寺 司録鈴
高さ 約110mm



(2) 般若寺 獅子頭鈴
高さ 約65mm



(3) 不退寺 平城宮 鬼瓦鈴
高さ 約106mm



(4) 不退寺 多宝塔鈴
高さ 約107mm



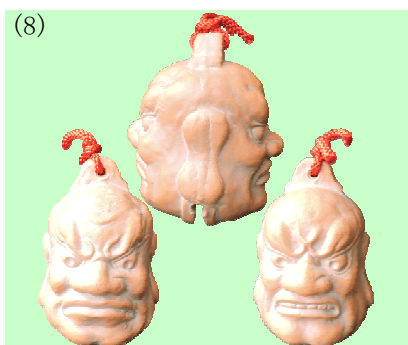
(5) 当麻寺 仁王 (大) 阿
高さ 約127mm



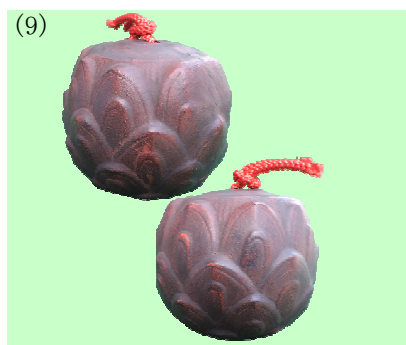
(6) 当麻寺 仁王 (大) 吽
高さ 約133mm



(7) 当麻寺 仁王(中)阿吽両面
高さ 約104mm



(8) 当麻寺 仁王(小)阿吽両面
高さ 約89mm



(9) 当麻寺 蓮華鈴
高さ 約65mm



(10) 石光寺 多宝塔鈴 (小)
高さ 約73mm



(11) 石光寺 多宝塔鈴 (大)
高さ 約120mm



(12) 檀原神宮 八咫鏡鈴
径 約73mm

山本芳香氏の作品集 (2ページ目)



(13) 吉水神社 太鼓開運土鈴
高さ 約56mm



(14) 吉水神社 銅鐸鈴
高さ 約115mm



(15) 吉水神社 神鈴 阿吽1組
高さ 約100mm



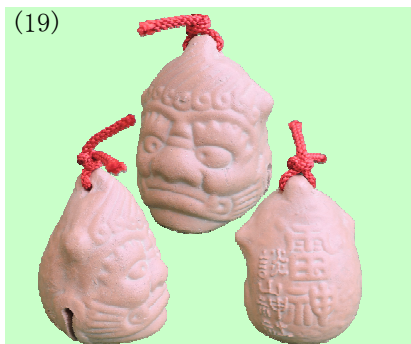
(16) 談山神社 狛犬鈴 小
高さ 約84mm



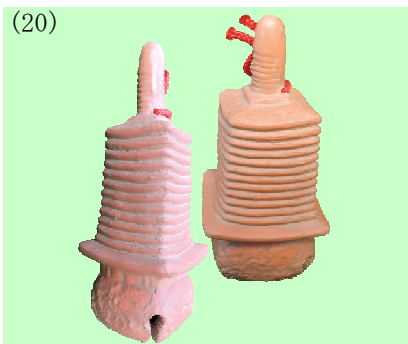
(17) 談山神社 狛犬鈴 大
高さ 約121mm



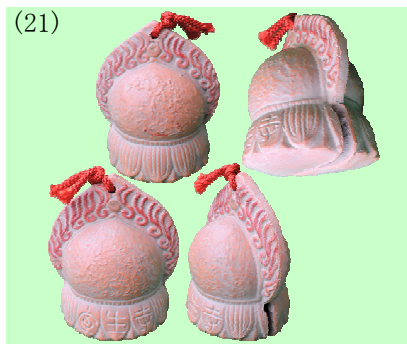
(18) 談山神社 獅子頭鈴
高さ 約102mm



(19) 談山神社 雷神鈴
高さ 約77mm



(20) 談山神社 十三重塔鈴
高さ 約138mm



(21) 室生寺 火焰宝珠鈴
高さ 約85mm



(22) 岡寺(龍蓋寺) 玉龍鈴
高さ 約108mm



(23) 岡寺(龍蓋寺) 天人文龍鈴
高さ 約74mm

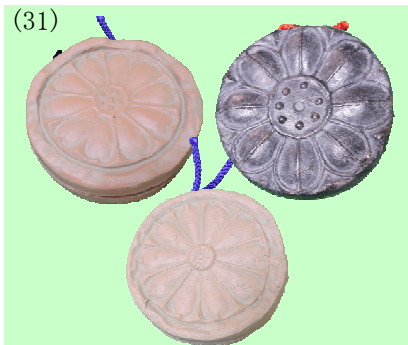


(24) 岡寺 極(たるき)瓦鈴
高さ 約45mm



飛鳥寺の土鈴

(25) 鷗尾鈴・高さ約90mm、(26) 飛鳥大仏鈴・高さ約98mm、(27) 明日香 猿石鈴・高さ約59mm
 (28) 馬鈴・高さ約75mm、(29) 入鹿の首塚鈴・高さ約115mm、(30) 明日香 亀石鈴・高さ約47mm



(31) 飛鳥寺 軒丸瓦鈴
 径 約82mm



(32) 壺坂寺 彩色鳳凰埴鈴
 高さ 約74mm



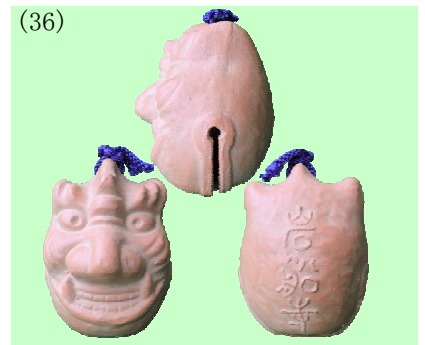
(33) 長谷寺 鰐口鈴
 高さ 約78mm



(34) 如意輪寺 兜鈴
 高さ 約60mm



(35) 岩船寺 鬼面鈴 2本角
 高さ 約88mm



(36) 岩船寺 鬼面鈴 1本角
 高さ 約87mm

山本芳香氏の作品集 (4ページ目)



(37) 岩船寺 身代り不動明王鈴
高さ 約57mm



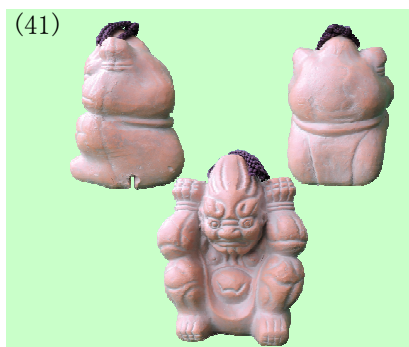
(38) 岩船寺 天邪鬼鈴
高さ 約62mm



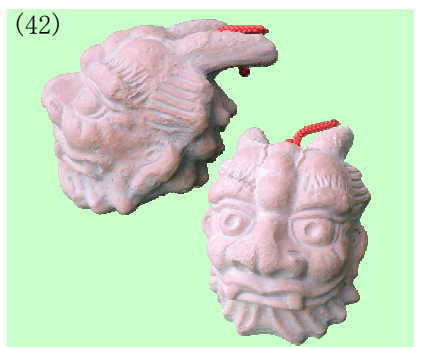
(39) 浄瑠璃寺 鬼瓦鈴
高さ 約80mm



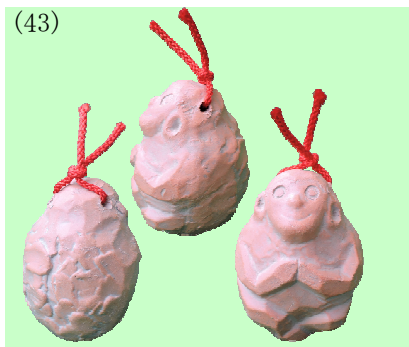
(40) 観心寺 天邪鬼 1
高さ 約64mm



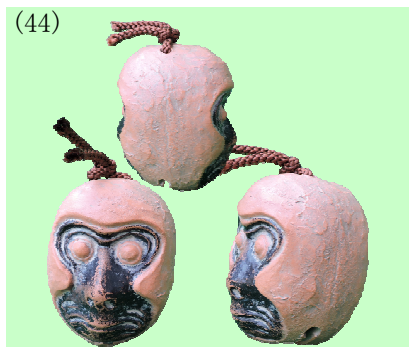
(41) 観心寺 天邪鬼 2
高さ 約88mm



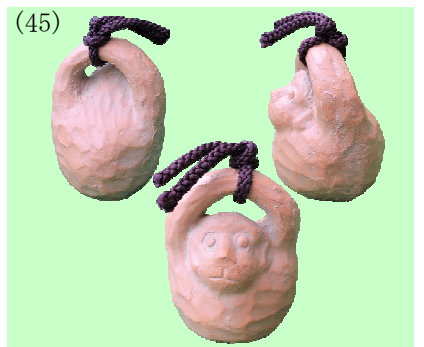
(42) 大江山の鬼
高さ 約83mm



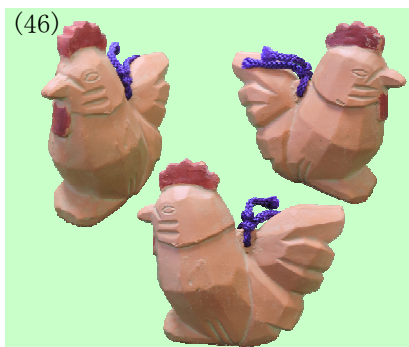
(43) 申年 干支鈴 座り
高さ 約65mm



(44) 申年 干支鈴 顔
高さ 約61mm



(45) 申年 干支鈴 両手挙げ
高さ 約63mm



(46) 酉年 干支鈴
高さ 約91mm



(47) 彩色八弁瓦鈴
径 約82mm

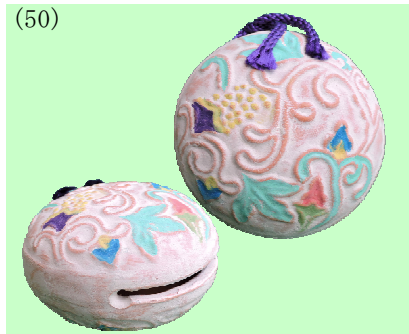


(48) 縄文土偶鈴
高さ 約128mm

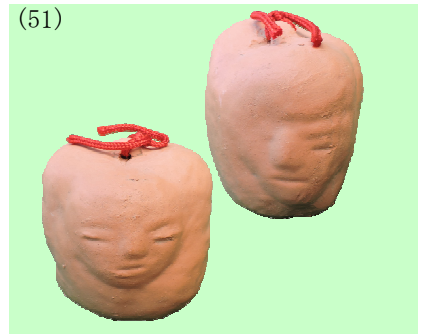
山本芳香氏の作品集 (5 ページ目)



(49) 隅木端鬼面瓦鈴
高さ 約126mm



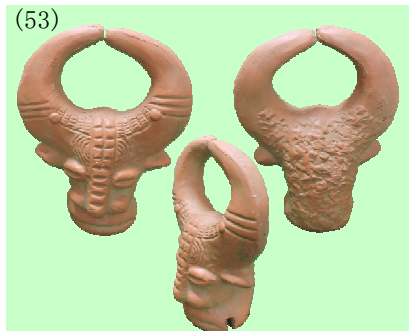
(50) 葡萄唐草鈴
高さ 約62mm



(51) 飛鳥 二面石鈴
高さ 約54mm



(52) 天乃香具山 国見会鈴
高さ 約73mm



(53) アフリカ風仮面鈴
高さ 約98mm



(54) 小型埴仏鈴
高さ 約58mm

5. 山本芳香氏の作品の中で未だ復元されていないものの一例



白毫寺
白毫鈴

不退寺
角大師鈴

壺坂寺
薬壺鈴

壺坂寺
薬壺鈴

檀原神宮
参拝記念鈴

飛鳥寺
雷丘雷神鈴

談山神社
蹴鞠鈴

浄瑠璃寺
宝珠鈴

蟹満寺
縁起鈴

観心寺
宝珠鈴

埴輪男子鈴

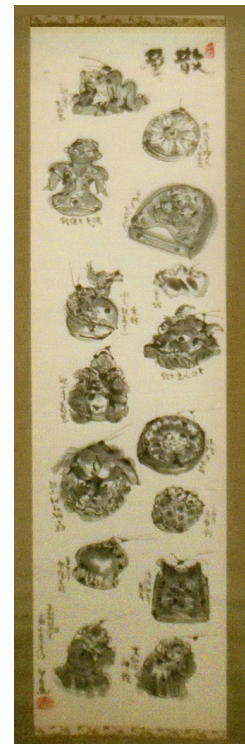
他に
古瓦鈴や
干支鈴等

6. 参考文献

- ・季刊 土鈴 第2号「土鈴百人」 大和土鈴の山本芳香氏にきく 森井伸也
- ・神戸土鈴友の会機関誌「栞」第23号 山本芳香さんのこと 入佐憲正
- ・土鈴作りに半世紀 奈良の山本良久さん 朝日新聞記事 1986年9月

7. 芳考さんの主要作品一覧 (未だ復元されていないものも含めて)

授与社寺	主要作品 (土鈴)				
奈良県	白毫寺	司録鈴	白毫鈴		
	不退寺	多宝塔鈴	平城宮鬼瓦鈴	角大師鈴	
	般若寺	文殊の鈴(獅子頭)			
	飛鳥寺	飛鳥大仏鈴	猿石鈴	亀石鈴	馬鈴
		二面石鈴	鷗尾鈴	古瓦鈴	雷丘雷神鈴
		入鹿の首塚			
	岡寺・龍蓋寺	玉龍鈴	天人埴鈴	古瓦鈴(垂木瓦)	
	壺坂寺	鳳凰埴鈴	薬壺鈴(小型二種)		
	談山神社	十三重塔鈴	獅子頭鈴	狛犬鈴(阿吽一組)	
		雷神鈴	蹴鞠鈴		
	当麻寺	蓮華鈴	仁王鈴(大型阿吽二種、中型・小型阿吽両面)		
	檀原神宮	参拝記念鈴	八咫鏡		
	石光寺	多宝塔鈴(大小)			
	室生寺	火焰鈴	宝珠鈴		
	長谷寺	鱧口鈴			
	吉水神社	銅鐸鈴	太鼓鈴	神鈴(狛犬)	
	如意輪寺	兜鈴			
	法隆寺	古瓦鈴			
川原寺	古瓦鈴				
中宮寺	古瓦鈴				
京都府	浄瑠璃寺	鬼瓦鈴	宝珠鈴		
	岩船寺	天邪鬼鈴	鬼面鈴二種	身代不動明王鈴	
	蟹満寺	縁起鈴			
大阪府	観心寺	天邪鬼鈴二種	宝珠鈴		
(不明)	隅木端鬼面瓦	小型埴仏鈴	アフリカ風仮面鈴		
その他	大江山鬼鈴 天乃香具山国見会鈴 縄文土偶鈴数種 干支鈴各種				



芳考さんの土鈴作品の墨絵掛け軸

8. 編集後記

山本芳考氏の土鈴が約30年ぶりに復元されたのを機会に山本芳考氏の土鈴、山本芳香氏の土鈴を取りまとめてみました。
山本芳香氏の土鈴に関しましてはその説明も含めてホームページでも紹介しています。5. に挙げたようにまだ型が見つからずに復元されていないものもあり、今後復元されると嬉しいですが、その際はこのホームページにて追加情報を発信できればと考えています。下記のように検索してご覧ください。

大和の土鈴 山本芳香

また、土鈴は壊れ物ですのでガラスケースに収納して眺めて楽しむのも良いですが、手にして感触を楽しんだり、ゴロンゴロン・コロリンコロリンという土の音に癒されたり、机辺に置いて雰囲気を感じたりするのも良いものです。機会がありましたら芳香氏の土鈴も手にしてお楽しみいただければ幸いです。

本小冊子に対するご感想や誤りの御指摘等、また芳香氏の土鈴の入手ご希望やお問い合わせがございましたら吉田までご連絡お願いします。

メール: miyosida@hotmail.com Tel. & Fax. 0742-61-5966

一期一会 土鈴との出会い

山本芳考さんの型から復元された土鈴

編集発行責任 吉田 満

監修・編集協力 山本義博、山本香津代(山本芳香)

2017年(平成29年)1月12日発行

非売品

無断での複製はご遠慮ください